

# 常磐毎日新聞

定価 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元  
廣告料 五號十二字 第一行 五拾銭  
日曜祭日の翌日休刊  
発行所 常磐毎日新聞社  
印刷所 常磐毎日印刷株式會社

## 陣中想出話 (七)

平町出身  
歩兵第廿九聯隊 水野重光  
第三中隊

### ▼手榴彈三十勇士

こゝは双河鎮警備隊、時は十月の末二十三日の夜列車は激しい音を立て、ホーマへ駆けこんで来た、俺達の頭には直ぐ手紙と云ふ感じがピンときます、平常は豚の様に動かないが、この時こそは頗る機敏で電光の如く走り出す、けだし日本の兵隊なり  
B一等兵「オイ手紙は來ないか？」  
警乗兵「いや御苦勞様です手紙は二三通しかありませんよ」  
A一等兵「なんだ、沒有法子」  
警乗兵大きなボール箱を二個出して「これは磐石の中隊の方から持つて來た手榴彈だから落さない様にして持つて下さい」  
のらくら一等兵「よし俺が持つて行くから寄越して呉れ」  
さてのらくら一等兵手柄顔に小隊長の前に持つて行くのらくら一等兵「小隊長殿中隊の方から手榴彈が二箱参りました」  
小隊長「開けて見よ」  
殿そかに命令は下された。

箱には太い繩で幾巻もしてあり、表面には取扱注意の大きな文字が書いてある、繩の結び目にはA曹長の封印がある、やがて開包も終り、小隊長の面前に於てうや／＼しく開けば鐵の手榴彈にあらずしてとても美味そうなお餅なり、外側に

## ノート

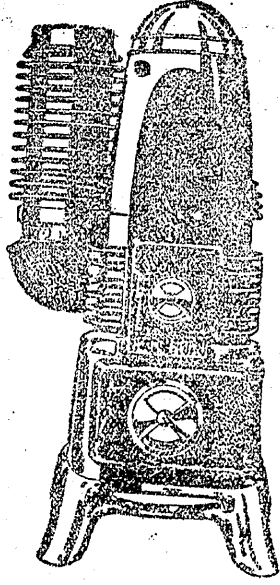
黒や赤インクの汚點はふのり汁か御飯粒をつけてもむのがよろしうございませうが、尙とれない時はかたくなつた鳥糞を水でこねてその上にのせ、しばらくおいてから洗ひをするととれます

は色黒々としたあん粉にて中には面を一つや二つながられても良いから食いた様な美事な物が陳列してゐる小隊長「なんだい、のらくら此の手榴彈は食はれる彈だぞ」  
二明日の献立二  
【朝】かす汁—鹽鮭 大根ねぎ  
【晝】焼肴—鯖てり焼き かんぴょう あちやら  
【晚】にしめ—はんぺん 里芋 ちまき

のらくら「そんな筈はなかつたんだが」  
小隊長「A上等兵皆んなに

四個宛手榴彈を分配しろ」  
点火した手榴彈を食つた三十勇士の最後や如何に？  
下痢か？腹痛か？否否警備のエネルギーとなつた。  
▼犬の喧嘩  
二匹の悍猛な顔をした黒犬が今盛に牙をむいてウーウーとうなりながらしきりに格闘してゐる所は磐石外城の南の橋に近い海邊である  
八名は今恰度河を渡つて此處にさしかつたのだつた  
淺井少尉「中隊長殿彼處に犬が喧嘩をしてゐます」  
中隊長「面白そうだな早く行け」  
一同は馬に鞭を打つて歩度を伸し駆け付けて見ればこは如何に包んで捨てられた子供を前に於て今争奪戦が演じられてゐる、二匹の犬の喧嘩をよそに見て他の一匹は今手足と鼻先を血だらけにして子供の手を食つてゐる、よく／＼見れば頭はもうむしられて三尺もはなれた處に轉がつてゐる、首をもがれた死体は今手を食はれてゐる、何んとも目のあて様もない支那の子供は犬に食はれて成佛して行くと言ふ、日本人に見せたら驚くところではない、御婦人方は卒倒する如何に人情風俗の相異とは言へ餘りにも悲しい現象ではないか

嚴冬の征服者  
福祿ストローブ  
戸に毎に福祿!!!四海は常春!!!



電話三七番へ  
カタログ御申越下さい早速持参致します  
福祿ストローブ福島縣一手販賣

阿部石炭商店  
平停車場前

磐城セメント會社特約店

# 大倉屋商店

磐城平町五丁目 電話九番九九番

- 良品廉賣に勝る商略なし
- 確實敏捷は人の生命なり

たしの素景品付賣出し

美味で經濟な液体たしの素は臺所を預る奥様や娘様方には是非御使用を御願いたしますと満足します  
京一だしの素 四合瓶一本 四十五銭  
二合瓶二本 五十五銭

尙紀念として京一醬油一升御買上毎に景品券を差上げます  
特等腕時計 一等醬油六ヶ月間進呈又萬年筆 二等醬油三ヶ月間進呈又ハンシャープペンシル 三等ダシノ素大瓶一本 四等ダシノ素小瓶一本 五等石鹼割箸マツチノ内一ヶ全部空籤ナシ

期間 十二月十五日ヨリ二月十五日マデ  
發表 二月二十日

新川町新藤屋隣 京一醬油直賣所

御贈答に!!! 漆器を!!!  
記念品に!!! 諸景品に!!!

誠實勉強 親切第一 在庫豊富

是非御用命を  
ドコモリモ、ヨイシナラ、ドコモリモ、ヤスクウ  
ル、又ルモノミセ  
平町三丁目北裏(元郵便局裏通り)

各國産漆器 専門卸小賣  
漆器店  
店員募集 十三才迄位 外 交 員

家庭温泉御案内

日本一の温泉草津の元泉に化學的操作を加へたる草津湯の素 家庭風呂に外用に!  
心地よく温まり絶対に湯冷めせず湯上り氣分價千金一家揃つて居ながらにして温泉氣分を味へ其上一切の難病を征服する靈湯なり。  
冷性の方、しもやけ、火傷、外傷、婦人病、痔瘻、神經痛、リウマチス、皮膚病、其一ら消毒用として特効あり。

定價 一〇〇瓦入凡 五五分 五十銭  
二五〇瓦入凡 十二日分 一〇〇圓  
六〇〇瓦入凡 三十日分 二〇〇圓

其他浴場用旅館用大徳用あり、試用分無代進呈いたします。…煙突掃除樂も販賣致します…  
石炭の御用命と共に是非御使用を御奨めいたします

海峽線 石炭商 伊藤軍二商店  
平町一丁目電話三四九番  
代理店 販賣元草津温泉研究所營業部  
特約販賣募集 各町村一ヶ所に限る御申越あれ  
特に御相談に應ず。

開業廣告

外科 醫學博士 渡部 義夫  
全科 渡部 義夫  
小兒科 女 醫 渡部 さい子  
内科 渡部 さい子

平町田町大通り(電話二七七番)

入院應需 渡部 外科

# 自動車網に壓倒され

## 平驛赤字連續

### 昨年は乗客貨物共に激減

### 此の對策に腐心

平驛に於ける昨年度の輸送状況を見ると乗客は八十萬六千二百人で前年に比して五萬一千九百九十九人の減、降客は八十四萬千二百二人で同く七萬七千一百一十一人の減、賃金収入は廿五萬千六百六十一圓十錢で同く一萬四千八百七十九圓八十二錢の減、貨物の發送は三萬四千二百四十六噸で一萬四千二百廿六噸の減、到着が十萬七千三百七十五噸で三萬三千九百九十噸の減、賃金は六萬九千九百九十九圓九角八分で同く三千八百四十四圓七角六分と云ふ赤字の連續なので驛では此の赤字對策に腐心して居るが原因の八分通りまで各種自動車の發達に依る結果であると

# 農家肥料の

## 自給自足を圖る

指導員養成の講習會  
神谷農試分場に開く

石城郡神谷農事試驗場では來る十二月より十四日迄堆肥製造講習會を開催する事となつたが同講習會には郡下各町村より二名づつを選

# 迎平驛頭凱旋將士

凱旋の將士犒らふ驛麗ら、  
凱旋の勇士の面や朗らかな  
赫々と武動輝やく春の陽に  
感激の泪咽せびて驛霞む  
吹雪野に馬匪退治して鬼將軍  
驛頭や萬歳嵐旗の海

影一

# 新川

## 豫防總會

目下匡救工事を急いで居る平町の新川は多年の宿望漸く達成し既記の如く明年度

# 木の香新らしい

## 調停室を使用し

### 十九件を解決の見込

平區裁判所に於ける新年に這入つてから本日迄の臨時債務調停の申立は八件であつて昨年度の未済十一件を併せ計十九件になるが愈々明日より舊臘中に竣功した債務調停室に於て之が調停を行ふと

# 庶民金庫の

## 總代会遅る

信用組合  
平庶民金庫にては  
近く總代会を開き決算を行ふべき豫定の處舊曆歳末が接近するので總代連の都合を考慮し舊曆正月に遅らせ

# 第三青年

## 總會協議

石城郡第三方面男子青年團役員會は來る十七日午前十一時より平一小學校に開き

# 速成野菜

### けふの講習

既報石城郡神谷村農事試驗

より縣費支辨に編入される事となつた爲め來る十三日午後一時から平町會議室に於て平町外二ヶ村聯合惡水豫防組合總會を開き決算や豫算を附議すると

# 政友總會

### 幹部の協議

石城政友部會にては來る十四日午後一時から幹部會を開き新年總會其他に關して協議する由

# 自治會の協議

平第二小學校にては來る十二日自治會を開き共同自治的奉仕作業に就いて種々協議すると

# 正木校長の

## 十三日講演

平町十三日會例會は來る十三日午後六時よりマルトモホールに於て開かれ磐城高等女學校長正木貞二郎氏の「思想國難のあと」と題する講演がある

# 井上氏を歓迎

既報去る七八兩日に亘つて常磐線經由にて仙臺に凱旋した野砲二聯隊上等兵中柳町出身井上榮市氏は本日午後三時十七分平驛着列車で歸郷する事となつたので町役場では軍人分會青年團と聯合して驛頭に盛大な歓迎を行つた

# 高久青年總會

石城郡高久村青年團では來る十五日午前十一時より同村小學校に於いて總會を開き役員の改選あり終つて新年宴會を催すと

# 勿來俵米授賞

既報石城郡勿來村農會では舊臘中開催した俵米品評會の入賞授與式を今日午前十一時より村役場に於て舉行した

# 川前農會總會

石城郡川前村農會では明十一日午後一時より同村小學校にて新年宴會を兼ねて總會を開き昨年度豫算並に事業の報告を行ふと

# ◆乗用自動車貸切賃金表(五人乗一臺)

- 市内五〇 市内往復八〇 中バス一、〇〇 大バス二、〇〇
- バス往復六割増
- 湯本植田方面—小島六〇 御厩八〇 綴一〇〇 宮一、五〇 湯本一、五〇 下湯長谷二、〇〇 田邊二、五〇 泉三、〇〇 泉(小名濱廻)三、五〇 植田三、五〇 勿來四、〇〇 窪田四、五〇
- 江名方面—中山八〇 上高久一、〇〇 下高久一、三〇 沼ノ内一、五〇 豊間二、〇〇 江名中ノ作二、五〇 小名濱方面—下矢田一、二〇 走熊(七本松)一、五〇 小名濱二、五〇 片濱廻一周五、〇〇
- 四倉—鹽野八〇 草野驛一、二〇 新舞子一、五〇 夏井(學校附近)一、五〇 仁井田一、八〇 四倉二、〇〇 波立二、五〇 玉山三、〇〇 久ノ濱三、〇〇
- 小川方面—曲田七〇 平窪(江筋迄)一、〇〇 關場一、五〇 小川郷驛二、〇〇 福島炭礦二、〇〇 片石田二、〇〇 江田三、五〇 川前四、〇〇
- 赤井方面—赤井驛附近一、〇〇 嶽下一、五〇
- 好間澤渡方面—中好間八〇 立坑一、〇〇 町田一、〇〇 元山一、二〇 大和利一、〇〇 成澤三、〇〇 合戸三、〇〇 渡戸四、〇〇 澤渡五、〇〇 三坂七、〇〇
- 上遠野方面—藤原二、〇〇 上遠野四、〇〇 入遠野五、〇〇

# ◆貨物自動車貸切賃金協定表(平町)

- 東京方面—綴二、〇〇 湯本二、五〇 宮二、五〇 泉四、〇〇 植田五、五〇 勿來六、〇〇 平湯七、〇〇 大津七、五〇 磯原八、五〇 高萩一〇、〇〇 助川一三、〇〇 久慈一五、〇〇 湊二〇、〇〇 磯濱二〇、〇〇 水戸二〇、〇〇 土浦三〇、〇〇 東京四〇、〇〇
- 江名方面—下高久二、五〇 沼ノ内三、〇〇 薄磯三、五〇 豊間四、〇〇 江名四、五〇 中ノ作四、五〇 小名濱四、五〇
- 仙臺方面—草野二、〇〇 四倉三、〇〇 久ノ濱四、〇〇 廣野七、〇〇 富岡一〇、〇〇 長塚一二、〇〇 浪江一三、〇〇 小高一四、〇〇 原ノ町一六、〇〇 鹿島一八、〇〇 中村二〇、〇〇 仙臺三五、〇〇 鹽釜三八、〇〇 石ノ巻四〇、〇〇
- 中通方面—小川三、〇〇 川前六、〇〇 小野新町一〇、〇〇 舟引一五、〇〇 三春一六、〇〇 郡山一七、〇〇 須賀川一七、〇〇 本宮二〇、〇〇 二本松二三、〇〇 福島二五、〇〇 若松三〇、〇〇 上遠野三五、〇〇 竹貫一〇、〇〇 石川一四、〇〇 白河一八、〇〇 太田原二八、〇〇
- 兩毛方面—下館三〇、〇〇 宇都宮三五、〇〇 桐生四〇、〇〇 足利四〇、〇〇 前橋四五、〇〇 高崎四五、〇〇
- 澤渡方面—赤井二、〇〇 立坑二、二〇 元山二、五〇 永戸六、〇〇 澤渡七、〇〇 三坂一〇、〇〇
- 市内—家越二、〇〇 普通一、五〇

# 各立

福島縣自動車協會平支部

八年一月一日

# 片倉系統の工場中 磐城製糸が第一位

## 良好の業績を収めて 優勝旗を完全に獲得

不景氣何んのそのとばかりサイレンの音も明らかに不  
斷の大努力に精進しつゝあ  
る平町の片倉製糸會社は辰  
野所長の采配宜しきを得て  
東北に所在する同系  
統の各製糸工場即ち  
仙臺 岩手高田 同千配  
盛岡 山形兩羽 郡山  
等と生産高、能率、其他の  
業績を統計的の競争に依つ  
て斷然第一位を占め片倉本  
社よりの優勝旗を三ヶ年繼  
續して授與された爲め同優  
勝旗を完全に獲得する事と  
なり去る五日辰野所長が

### 尋四擔任訓導

既報  
喜多方中學校教諭に榮轉さ  
れた平第一小學校訓導小林  
武司氏の後任として同町七  
軒町居住米本富藏氏が任命  
され四年の一組を受持つ事  
になつたと

## 患者は無いかと 巡回診療自動車

廿七日から鹿島を手初めに

平署に駐在する縣巡回診療  
第三班は愈々第四次の診療  
を開始すべく準備中であつ  
たが来る十一日の相馬郡下  
を振出しに漸次南下して石  
城郡の巡回は鹿島村を手初  
めに左記の日割にて巡回す  
る事になつた

## 紹介人が 女を連れ 行衛を晦す

石城郡江名町北町一三八  
佐藤半三は昨年十二月の中水  
戸市下市柵町周旋業上久保  
源太郎(四)の紹介で身元不  
明花子(心)と云ふ者を雇入  
れたが上久保は花子の親に

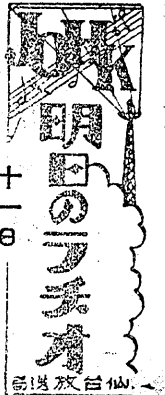
## 新年の... 白米入札

石城販賣利用組合大浦農庫  
の共同販賣は去る五日行は  
れ百七十俵を入札せる結果  
四等一俵九圓二錢にて全部  
入山炭礦に落札前同より八  
錢安であると尙平農業倉庫  
の共同販賣は本日午後一時  
より同所にて行はれるが入  
札米三百俵に達して居ると

## 電柱衝突

### 貨物車が料料

石城郡四倉町字仲植田三  
郎方自動車運轉手新妻辰政  
(三)は昨年十一月二十八日  
貨物自動車を運轉し平町よ  
り四倉町に向つて進行中大  
浦村大字大森地内に於て電  
柱に衝突し附近の吉田久治



今晚も明日も北西  
の風で天気よし

## 今晚の部

後六、〇〇 子供の時間  
童話「ディックの猫」中  
根茂  
後六、二五 國立公園特別  
講座「日本アルプス」矢  
澤米三郎  
後七、三〇 講演 商工大  
方雨戸一枚を破壊しながら  
警察署に申告せず自動車取  
締令違反として料料十五圓

## 當もなく歩も廻る モンペの白痴少年

### 小野新町から草野村へ そして平町迄薩摩の守

昨九日午後四時頃平町三丁  
目地内をモンペ姿の少年が  
徘徊して居るのを平署員が  
本署に連行保護を加へて事  
情を聞くと同人は田村郡小  
野新町字七郷田居住若林繁  
太郎長男三郎(モ)假名と云  
ふ白痴の子供で八日フラフ  
ラと實家を飛び出し何處をど  
う歩いてか草野村に流れ込  
み國道筋で乗合自動車に乗  
つたが無賃と解り平町で降  
され當てもなく徘徊して居  
たもので目下親元に照會中

## 幼児怪我

### 自動車と衝突

石城郡小名濱町字横町三一  
居住自動車運轉手齋藤清太  
(三)は去る八日午後二時頃

## 明日の部

後九、三一 滿洲  
全國ニュース 氣通報  
番組預告  
後九、三〇 料理献立「伊  
達巻卵」中會根うめ子  
前一〇、三〇 家庭講座  
前〇、五〇 落語「嘘つき  
彌次」三遊亭圓遊  
後二、〇〇 婦人講座「女  
性より男性へ」山田わか  
後六、〇〇 子供の時間  
童謡獨唱 本居若葉 本  
居浩一  
後六、二〇 國立公園特別  
講座「日光」林學博士田村  
剛  
後七、三〇 婦人の夕  
(宗教的態度を望む)小泉  
郁子(女子高等教育の矛  
盾をどうするか)高橋ふ  
み(婦人雜誌と社會相  
部貞子(一國文化の目安  
となる婦人の頭腦)徳永  
チフ(詩の心)深尾須摩子  
後九、三〇 ラヂオレジュ  
「世界を繞る戀」松竹樂  
劇部生徒

## 平職業紹介所報告

回人を求める方  
△店員 二十三才 尋卒  
給料面談(平町某)  
△女中 四十才以下 月五  
六圓(平町某)  
△店員 十八才 尋卒 月  
四圓位(平町某)  
△出前持 二十才 尋卒  
給料面談(平町某食堂)  
△運轉助手 十六才 尋卒  
仕着小遣(平町某)  
回職を求める方  
△工場雑夫 二十三才 尋  
卒 給料面談(内郷村某)  
△菓子職人 四十八才 高

平町二丁目  
**三井タクシ**  
電話六八五番

# 茶室

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒 圓玉 演  
近藤 紫雲 畫

第二三十九席 平手造酒

富五郎現る

七助は役人に問ひつめられて

七「こんな事を云つては親分によくねえが何うも仕方があるねえ何うぞお役人様聞いて下さいまし、わしは悪い事をして此の金を勢力の親分から貰つたわけではございません」

役「そんな事は何うでもいゝ、勢力は當時何處にゐる」

七「夏目の金比羅山に居ります」

役「何んだと夏目の金比羅山に居ると」

七「居りますよ」

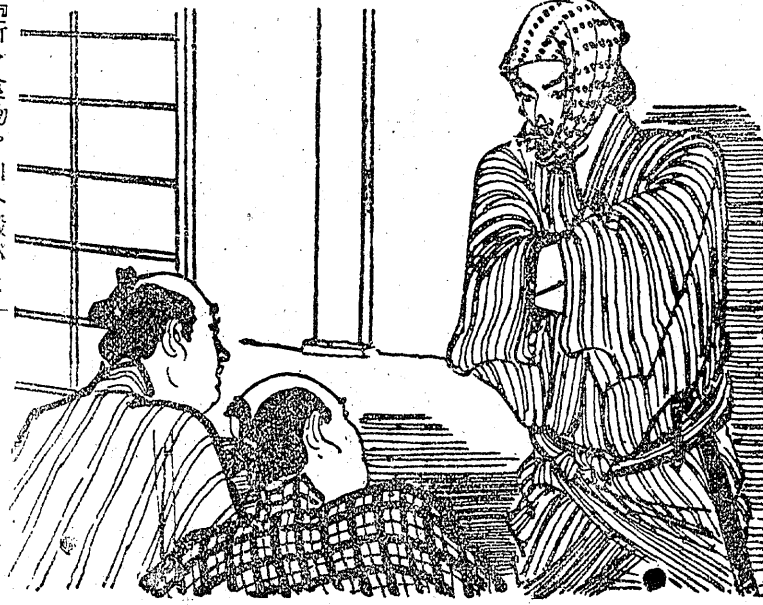
役「一人ではなからう」

七「ハイ親分一人ではねえ大分子分衆が居ります」

役「大分とのみではその數が判らねえ、何人程ゐる」

七「左様でございます、五六十人も居りますか、みんな鐵砲を持つて役人が来たら撃つ殺すと云つて待つて居ります」

七助が大仰な事を云ひました、その實勢力は鐵木の榮助と云ふ子分と只二人、しかしかう云つて置くと役人も容易に手をつけまいと思つた



七「折々食物を山へ搬びます、その骨折だと云はしつて金をくれました」  
役「さうか、尙取調べる事があるこれに居れ」  
こゝで七助は陣屋に監禁され、八州役人にこの事を告げ一層人數をまして金比羅山へ取りつめる事に

お話變つて此方は飯岡の助五郎、勢力が生きてゐては危険、一日も早く捕へようとの子分に云ひ付けて萬歳村から清瀬、又夏目村の附近に繩を張つて勢力のこの畷にかゝるを待つてゐた、又折々自分もこゝへ出張して指圖をする、すると或晩の事でした子分が店で將棋をさして遊んでゐた、其時に助はゐるかと思つて表からヌツと入つて来たは手拭で顔を包んだ大きな男腰には脇差を佩してゐる、助五郎は銚子の陣屋の御用

○「何度云つても同じ事だ助はゐるか、助と云ふは我がために親分、助五郎の事だぞ」  
子「飛んでもねえ奴だ、うぬは狂人だな、さもなければ親分の事を助とは云へねえ筈だ」  
○「ウーム、助と呼んでは悪いか」  
子「口が曲るぞ、それに冠り物をして失禮千萬」  
○「助はゐるか、但しは留守か忙しい身體だ早く返答しろ」  
子「親分は留守だ、銚子に行つてまだ歸つて来なされねえ」

○「それでは留守か、ヤイ、歸つて来たならば俺が尋ねて来たと言ふ云へ」  
と云ひつゝ冠つてる手拭をバラリと取つた、奥から映す灯でその人を見るとこれは勢力富五郎でありますイヤ吃驚して何も云はず顔と顔を見合した

富「判つたか助が歸つて来たならば男らしく勝負しろとさう云へ、役人の手を借りてその上御用風で俺を押しよとするは卑怯な事だとさう云へ、又来るぞ」  
と云ひ捨ててうへへ出て行つた、その態度の傍若無人に氣をのまれて若い者は呆氣に取られてゐる、實に勢力は剛膽者で取り巻かれてゐる中を忍び出てこの飯岡まで来ましたが、助五郎がゐたならば名乗を上げて勝負の上斬つてしまふつもり、ところが助五郎が不在隠してゐるやうな様子も見

えぬからこゝを出て足立屋と云ふ料理茶屋に上り、酒を飲み食事をして土産物を持ちこれ亦いふと立ち退いた、助五郎は銚子へ用事があつて来てゐたが子分の知らせによつて勢力が来たと聞き直に引返して来たがモウ影も見えない、すると足立屋と云ふ料理茶屋に立寄つたとの事が判つた、助五郎も勢力の膽の太いに吃驚して役人にこの事をつけ、又復手を廻して勢力の行方を尋ねるところがなか／＼知れない、知れないにしたところ捨て置く事は出来ない、草を分け、死を起してもさがつ

父卯之吉儀病氣中の處藥石効なく去る二日午後九時死去仕候間此段御通知申上候也  
追て葬儀は十一日午後二時自宅出棺性源寺に於て佛式を以つて執行仕候  
昭和八年一月八日

高野野 高野野 高野野  
高野野 高野野 高野野  
高野野 高野野 高野野

高野野 高野野 高野野  
高野野 高野野 高野野  
高野野 高野野 高野野

高野野 高野野 高野野  
高野野 高野野 高野野  
高野野 高野野 高野野

高野野 高野野 高野野  
高野野 高野野 高野野  
高野野 高野野 高野野

**梅毒** **淋病**  
皮膚病 婦人病 腸胃病 腸虫病  
門專 院醫科  
院醫科  
〇七一話電

**宮温湯**  
丹波博士創製セキドメ  
たんばあめ  
靈藥ムテキ  
平町古鍛冶町一〇  
**阿康藥舗**  
縣社ノ下 電四四番

**レメドール**  
米國製刺皮膚病良藥  
子宮あたゝめぐすり  
子宮病、根切藥、下腹や腰の痛みをなほす事妙な  
ヒビ、シモヤケ、ハタケヤケド、キリキズ、タム

**お醤油は ヤマフル**  
醬油味噌 たひら 正宗 鯨節 食料品  
鹽屋 **山崎合名會社**  
福島縣平町電話營業部二階造工場  
明治生命磐城代理店 山崎與三郎